



日立一高ラグビー部OB会 会報

<http://www.ichiko-rugby-obc.com>

○「総力を挙げて関東大会を目指せ！」 尾又副会長にインタビュー

OB会報の巻頭は、これまでOB会長あいさつ又は学年幹事会報告等を掲載してまいりましたが、今回は趣向を変えて、OB会副会長であり永年にわたり現役の指導に当たってきた尾又さんからインタビュー形式でお話を伺ったので、ご紹介します。

(インタビュー：近藤幹事長、サポート：吉田会長、記録：木下事務局長)

(近藤) 尾又副会長は、創部60周年記念時に、ラグビー部に永年貢献していただいた功績に対して「特別表彰」を受けましたが、卒業後、日立一高で指導を始めて何年になりますか？また、今年で年齢は幾つになりますか？その間の思い出話なども、よろしかったら聞かせてください。

(尾又) 明治大学在学中から日立一高のグラウンドには顔を出していましたが、昭和41年に卒業し、日立に戻ってから本格的に指導を始めたので、今年で丸43年になります。

その間、初代の和田先生・松本先生・滑川先生・吉沢先生・鈴木先生・橋本先生と、監督の先生は6人おられますが、私は一貫して指導に当たってきました。

年齢は、今年の1月11日で満65歳になりました。

私が日立に戻ってすぐ、昭和43年には田沢先輩の発案でポパイクラブが設立され、日立一高で指導に当たる傍ら、ポパイクラブ・常陸不惑倶楽部でもプレイを続けてきました。

ポパイJr. (現在の日立ラグビー少年団) の創設に関わったことや、県ラグビー協会の強化委員長として社会人全茨城チームの強化に努めたのも、今では良い思い出です。

当時の社会人全茨城チームは、日立製作所と住金鹿島と県内クラブチームの混成メンバーでしたが、昭和62年沖縄国体の関東ブロック予選の準決勝で東京三洋(現三洋電機)を破り、決勝戦では東芝府中に惜敗したものの、関東社会人のビッグ2と互角以上に戦い、茨城県ラグビーのレベルの高さを示しました。(東芝府中は、その年の社会人選手権で優勝)

平成元年には、日体協と文部省(当時)が一体となって創設した「競技力向上C級」ライセンスに挑戦。2度にわたる4泊5日の合宿を経て学科試験と実技試験をクリアし、県内のラグビー関係者では、滑川先生(日立一)、柴田先生(茗溪)に続く3番目に取得しました。

(近藤) その間、現役の成績は山あり谷ありで、昭和50年代には全国大会5回出場、県内公式戦111連勝などの記録を残しましたが、その後部員不足で県大会に単独で出場できない時期もありました。まさに悲喜こもごもの時を送ってきたわけですが、これまでを振り返って、一番嬉しかったこと、一番悲しかった・残念だったことは何ですか？

(尾又) 一番嬉しかったのは、何とんでも昭和53年に全国大会に初出場を決めたときです。県大会で優勝した翌週には、花園出場をかけて次選に東関東大会で対戦する栃木県の代表決定戦を吉田会長と見に行きましたが、佐野高校にどうやったら勝てるか、当時スーパースターだったS O津布久くんのロングキックをどう



第58回全国高等学校ラグビーフットボール大会 花園

やったら封じ込むことができるか、帯りの車の中で2時間かけてディスカッションしたことを覚えています。その結果、スクラムを押すしかない！という結論に達しましたが、スクラムを必ず押せるという保証はどこにもありません。結果として、その作戦が功を奏し、佐野高校を破って全国大会初出場を決めたのですが、今でもそのときの感動は忘れることができません。



新人戦優勝（全国大会）

次に嬉しかったのは、昭和51年の新人戦で、前年度全国大会ベスト8の強豪、北茨城高校を破って優勝したことです。あのときは嬉しかったというよりも、あまりにもこちらの作戦が上手くいきすぎてびっくりしたことを覚えています。北茨城高校はFW・BKともに強力メンバーで、前年の夏合宿では0-100くらいで大敗しており、普通に考えたら絶対に勝てない相手でした。そこでコーチ陣が知恵を絞って、とにかくFWの球出しを早くしよう、早い球出しで相手を振り回そうということで、FWには相手に当たる前にボールを出すよう指示しました。いわゆる、かつて

の早稲田ラグビー的なことを試みたわけですが、それがものの見事に当たり、強敵を倒すことができました。（事務局注：この先進的な取り組みについては、早稲田OBの照沼氏（昭和52年度卒）はOB会報への寄稿文の中で、後年進学した早稲田大学での大西監督の明大の大型FW対策とはほぼ同じだったと感嘆しています。）この「早い球出しで相手を揺さぶる」というスタイルは、今の日立一高が目指すべき方向性を示していると思うので、監督・現役諸君には、ぜひ取り組んで欲しいと考えています。

逆に一番悔しかったのは、平成2年に長男の彰彦がSO（バيسキャプテン）だった年、全国大会予選の準決勝で常総学園に敗れた試合です。この年は茗溪学園が弱く、新人戦は常総が優勝（日立一が準優勝）、関東大会予選は常総と日立一が同校優勝、国体予選は太田一が優勝（常総が準優勝）と、3チームで県内の優勝を分け合っていました。常総との準決勝も日立一の小柄なFWが相手の超大型FWを圧倒し、後半にスコアを逆転して勝利を目前にしていたのですが、ロスタイムのラストワンブレイで9-12と逆転負けを喫してしまい、その年は常総がそのまま全国大会に出場しました。昭和59年を最後に、全国大会出場を逃していた日立一にとって、その後唯一のチャンスの年だったと思われるだけに、今思い出しても辛い思い出です。

（近藤）全国大会に出場していたころは、今ほど私立高校がラグビーに力を入れていませんでしたが、今日では茗溪、清真、常総、つくば秀英、東洋大牛久などの私立高校が県内外から選手を補強し、強化を図っています。県立の進学校である日立一が、それに対抗するためには、どのようにして強化を図ったらよいのでしょうか？中長期的な視点からの考えを聞かせてください。

（尾又）毎年、全国大会出場を狙うことは、選手の質・量から考えても無理があります。正直なところ、今後、茗溪・清真が存続する限り、よほどメンバーに恵まれない限り、全国大会出場は難しいと考えなければなりません。

その中で考えなければならないのは、まずはベスト4を目指すこと、そして関東大会出場を目指すことです。当時ベスト4に入り、関東大会に出場する中で、チーム力を高めていくことが必要と考えています。

最終的な目標は全国大会に出場することですが、まずは具体的な目標として関東大会に出場する。そして、一人でも多くの現役が全国大会予選まで活動を続け、大学に入ってもブレイを続けて後輩の指導に来てくれる。そうすることによって、現役部員の中に「自分たちもそうなりたい」という意識が芽生えてくると思います。

繰り返しになりますが、関東大会出場、そして全国大会予選までの活動の継続、そのためには、これは指導に当たる先生方へのお願いになりますが、1年生のときから部活と並行して勉強にもきちんと取り組んでもらいたいと思います。

（近藤）ここで、尾又副会長のプライベートについて伺います。今でも現役と一緒に、また不惑倶楽部の一員としてグラウンドを走り回っています。体型も変わりませんが、どうやって鍛えているのですか？ラグビー一途の人生を歩んでいますが、仕事や家庭とどのようにして両立してきたのですか？

(尾又) 毎日、家内と一緒に近所のフィットネスクラブに通って、ランニング、水泳、筋トレと、2時間は汗を流しています。それと、一日1万歩以上歩くようにしています。

私にとって、母校に行って指導するということは、自分を育ててくれたラグビーへの恩返しだと思っています。私は、明治大学時代、必ずしもラグビーを完全燃焼することができませんでした。その消化不良を解消すること、また（後年実現しましたが）母校を全国大会に出して明治大学に入れるような選手を育てることで、お世話になった明治大学の北島先生に恩返しをしたいという気持ちも強く持っていました。



家族に関して言えば、私の情熱に家内が理解を示してくれたことでしょう。北島先生とよい師弟関係となり、先生が私を評価してくれたことで、家内もラグビーをおろそかにはできないと、私に一目置いてくれるようになりました。そして何より、私がラグビーを好きだったということに尽きるでしょう。

長男、次男に加えて2人の甥たちも高校・大学・社会人とラグビーに打ち込み、現在では、孫の悠介もラグビー少年団で楯円球を追っています。

(近藤) これから先、後輩のOBたちに送るメッセージをお願いします。

(尾又) 木下が市役所に、金澤が体育協会にいて、そして長男の彰彦が家業を継いでくれています。これら地元根を下ろした後輩たちを中心にして、一人でも多くのOBが母校に足を運び、後輩たちを厳しく、そして情熱を持って指導してくれることを願っています。そして、後輩でもある橋本・照沼両先生には、子どもたちに、もっとラグビーそのものを教えてやってほしいと思います。練習を教えるのはもちろんですが、世界のラグビーの現状や、ラグビーとは何なのか、ラグビーの本当の素晴らしさなどを知ることによって、ラグビーに取り組む姿勢そのものが変わってくると思います。

(近藤) 最後になりましたが、日立一高ラグビー部は、今後再び全国大会に出場できるでしょうか？

(尾又) 先ほども話したように、現状は極めて厳しいと言わざるを得ません。しかし、ラグビーを愛し、ラグビーを通して人間を作る、そういった考え方の親と、それに共鳴できるような子どもとが揃って、数多く日立一高ラグビー部に入ってくるようになれば、可能性はゼロではないと思います。そんな時代がやってくることを、心から願っています。

(近藤) 今日は、長時間に亘ってお話を聞かせていただき、ありがとうございました。今後とも陣頭に立ち、現役の指導とOB会のリードを宜しくお願いいたします。

○平成20年度役員会開催報告

今年度（年度は6月1日から翌年5月31日まで）中間時を迎え、年間計画のフォローを行う役員会を1月3日（水）蹴り初め終了後、役員13人、先生2人、指導者7人そして父母の会代表8人合計30人で開催された。

今年度も現役にあっては、ベスト8止まりでAクラス確保に今一歩となっており、一方、OB会としては、運営費確保に苦戦している。

そこで年間計画遂行上の諸課題について意見交換を行い、年度の後半に備えた。

1. 現役の強化策について

1-1 部員確保

2・3年前は総員で15人がやっとだったが、今年は1年生11人が入部し、現総体時には35人となった。しかし、大会後3年生は2人を残して8人が抜け、27人（3年生2人、2年生14人、1年生11人）では、なかなか実践的練習（紅白戦のような生身の練習）が出来ないでいる。

【対応策（案）】

- 1) 新入部員15人以上（出来ればFW向きの身体の大い生徒も欲しい）の確保
- 2) 3年生部員の全国大会までの現役続行・・・1年生時からの継続的な練習と学習の両立など

1-2 OB集合日の活性化（計画性ある練習法の確立）

昨年から第2・4日曜日を「OB集合日」と決め、OBの指導をお願いしてきたが、毎回2人～5人の参加となっている。3年生が抜けた分を補完するには、質（走れる）、量（人数）共に不足している。

更に、何人集まるか当日にならないと分からず、場当たり的な指導となっている。

指導に来たOBも当てにされておらず、何をして良いか戸惑い、次回また参加する気にならないのが現状。

【対応策（案）】

1) 指導員初度の確立

- イ) 走れるOBを10人程度「指導員」として正式に任命する。・・・任命書を出す
- ロ) 指導員には、練習用のユニホームを貸与する。
- ハ) 監督・先生と指導員（代表の選出）との間で、定期的に練習内容の打合せを行う。
- ニ) OB集合日には、事前に当日の出席を確認する。

- 2) OBだけでなく外部（茨城大学、ボバイクラブ、不惑クラブ、日立製作所など）チームと合同練習をする。

1-3 部員の体力強化

ラグビーをやるには、今の部員は身体が小さすぎるので、体力と走力強化を図らなければならない。

【対応策（案）】

- 1) 校内にあるフィットネス設備の有効活用・・・だらだらせずに真剣に目標を設け挑戦する。
- 2) 毎日の練習に走力強化を取り入れ、スピード、スタミナをつける。

1-4 ラグビー狂の育成

グラウンドでの練習だけでなく、実地またはビデオによる上級の練習や試合見学、著名人のラグビーに関する講演会を実施し興味を持たせ、部員をラグビーに精通したラグビー狂（通）にする。

※練習と勉強、フィジカル強化、講演会については別途関係者で検討し、詰める事にする。

2. OB会費と広告収入の納入促進

2-1 OB会費

予算では、納入者150人で500,000円に対し、12月末時点での納入は67人で242,000円（対予算48%）と大幅な未達成となっている。年度後半で追い込みをかけていかねばならない。

学年幹事を通じ、未納者に納入をお願いすることにします。

2-2 広告収入

予算20社で300,000円の見込みに対し、15社で257,000円（対予算86%）ともう一步となっています。

会報に年2回掲載して「年間広告費」を頂いていますが、来年度には更に範囲を広げていきますので、掲載してもらえそうな会社のご紹介をお願いしたい。

3. OB会役員の定年制の導入

OB会規約では役員の任期は2年とし、再任は妨げないとなっていて、特に定年制は設けていない。

そのため初代役員は永年勤め、会長、幹事長の体調不良により、平成16年5月に役員改選した経緯がある。

会員600名の大所帯をリードするためには、役員に若い息吹を吹き込む必要があるため、70歳定年制の導入を提案する。平成21年度では吉田会長、近藤幹事長が定年の対象になる。

【審議の結果】

急な提案であり、代わる要員も養成されていないので、もう少し後にして欲しいという意見があったが、退任しても相談員として協力するという事で、その場では了解を得た。・・・しかし、後日もう1年の任期延長の要請があり、規約は改定するが、経過措置として吉田会長、近藤幹事長は22年5月まで残任することになった。

4. OB会賛助会員制の導入

以前から、一高ラグビーの父母から、息子が卒業したら何の連絡も無くなり、その後の部の動向が分からず、応援したくても出来ないため寂しい思いをしているとの声があった。

OB会としても、寄付のお願いが出来ないなど不便を来していた。そんな時、今年度の父母会の有志から、年会費を払ってもよいから賛助会員にして欲しいとの要望があり、検討した結果「賛助会員制度」を導入する。

会則はOB会規約に準じ、年会費2,000円以上、会報を配布、代表者はOB会の会議に参加する。・・・賛助会の代表に長谷川前会長、副代表には岡部前会計をお願いすることにした。

(OB会幹事長 近藤 雅年)

○平成20年度茨城県高校ラグビー新人大会の戦績

1 回 戦	日立一	78 - 5	下館工業
準々決勝	日立一	3 - 73	茗溪学園
5位決定戦1回戦	日立一	7 - 28	水城

今大会は、単独チーム12校という参加数のなか「打倒シード校」を合言葉に臨みました。1回戦は、前半から主導権を握りたげない戦いぶりでした。ただ、点数以上に自分たちの形にもっともっとこだわりたい内容でした。

2回戦は第1シードの茗溪学園との対戦。攻守とも圧倒されましたが、昨年度の対戦時よりも、攻守ともに自分たちの持ち味を発揮できたという手ごたえはありました。やっぱり基本・基礎がしっかりしていないと上位シード校とは勝負できないことを痛感しました。

この敗戦で順位決定戦にまわり、水城高校と対戦しました。攻撃・守備での軸をぶらさない様に準備したつもりですが、試合をみるとやるべき軸のプレーが姿を消し、力を出し切ることができずに敗れました。前戦での負傷者、コンディショニング不良者が多数出てメンバー変更を余儀なくされましたが、それは出場チームであればどこも同じ、理由にはならない。むしろ、選手層の厚みを見せるチャンスも自ら消してしまった。まだまだ努力が足りないということです。・・・悲観することはない。この敗戦から何を感じたのか。CHALLENGE！我々は変わらなければ、変えなければならない。このままでは終われない。鋭く直して、春の関東大会県予選でリベンジします。

(日立一高ラグビー部監督 橋本 晃輝)

○父母の会総会が開催され、役員が改選されました

12月13日（土）に父母の会総会が開催され、平成21年度の新役員が、下記のとおり選出されました。

旧役員の皆さん、これまでお世話になりました。新役員の皆さん、これからよろしくお願いします。



【新役員】 会長：深谷（2）、副会長：堀又（2）、小野（1）、会計：丸橋（2）、鈴木（1）

※敬称略・・・（ ）内は、部員の学年

ここで、新旧の会長さんからごあいさつをいただきます。

《前会長 長谷川昌規さん》

昨年度、父母の会の会長をさせていただいた長谷川昌規です。

今、思えばあっと言う間の3年間でした。1年目は子供から試合は絶対見に来ないでと言われつつ、試合のたびに妻と一緒に車でコソコソと見に行きましたが、見に行く度に「あれ？ラグビーってなんか面白いな」と思い始め（妻は息子の体があたる度に、心配で手で顔を覆ってましたが・・・）、2年目になると更にラグビーの素晴らしさを感じたくて、子供に内緒で菅平の合宿に追っかけをしてしまいました。



【中列の右端、サングラスが長谷川会長】

そんな時に近藤さんから「H.E.C（日立エンジニアリング）だっぺ！近藤だよ」と肩をたたかれ、会社の先輩がOB会の幹部であることを知りました。その近藤さんから「父母の会の締めを頼むよ」と言われ、先輩からの頼みとあれば断ることも出来ず（泣・笑）、3年目は微力でしたが活動をさせていただきました。

父母の会の開催、試合ごとの熱の入った応援、素晴らしい応援用の小旗の製作、7時間をかけて行って日中は子供達の動きに感動し、夜はOBと語りあった菅平合宿と、どれもこれもが楽しいことばかりで、さあ、これからと言う時に終わりということだととても残念な気がします。

でも、素人ですがラグビーの素晴らしさが実感できましたので、これからもお付き合いをさせていただければと思っています。

短い間でしたがOBの方々には大変お世話になり有難うございました。伝統ある日立一高ラグビー部の益々の発展を祈念して、御礼の挨拶とさせていただきます。

《新会長 深谷美津江さん》

今年度、父母の会の会長になりました3年生の保護者の深谷美津江です。

昨年度は、長谷川会長が中心になり父母の会を発足させ、活動を開始することができました。長谷川会長の奮闘ぶりはすばらしいものでした。長谷川会長にはとても及びませんが、日立一高ラグビー部の発展のために少しでもお役にたてれば幸いです。

私事ですが、夫も長男も本校ラグビー部のOBであり、私も30年ぶりに母校の応援ができることを嬉しく思っています。

保護者の皆様、時間がありましたらぜひグラウンドに、試合会場に足を運んでください。そして、生徒たちのプレーする姿を見て、応援をよろしくお願いします。練習や試合の日程、ラグビー部の様子などは、日立一高ラグビー部OB会のホームページに掲載されていますので、ご覧になってください。



昨年度は部員も増え、顧問の橋本先生、照沼先生、OBの方々の熱心なご指導のおかげで、県でベスト8になることができました。今後はベスト4、関東大会出場を目指して日々練習に取り組んでいってほしいと思います。

ラグビーと学業の両立は大変だとは思いますが、3年生にはぜひ秋の全国大会予選までラグビーを続けてほしいと思います。私たち父母の会も先生方やOB会の方々と連携を図りながら、生徒たちの力になりたいと考えています。保護者の皆様、ご協力よろしくお願いします。

○「蹴り初め」を開催しました

新春恒例の「蹴り初め」を1月3日（土）に日立一高グラウンドで開催しました。

晴天ではありませんでしたが強風が吹く中、大先輩から若手まで約80人のOBが集まり新年のあいさつ後、午前10時20分から20歳代、30歳代、40歳代、年齢問わずの4チームを編成してOB戦を行いました。

今年の現役チームは昨年よりも更にパワー・スピード共にアップしており、OBを驚かせる場面が幾度となくあり、古豪復活への期待を十分に感じさせられる内容でした。

試合後は1週間後に迫った新人戦に向けてOBが胸を貸して練習台になりましたが、2回/月のOB集合日（第2・4日曜日）にも多くのOBが集まり、現役へラグビーの楽しさ、苦しさ、美しさ（楽苦美:ラグビー）を伝えられればと強く感じました。OBの皆さんの参加をお待ちしております。

最後は恒例の豚汁を食べて解散となりました。いつもながら大内二郎さん（第5回卒）・保護者の皆さん、早朝からの準備ありがとうございました。とても美味しかったです。

（昭和57年度・第35回卒 柴田 和則）



○第3代監督の滑川正昭先生が教員生活を全うされ定年退職を迎えました

本校ラグビー部の第3代監督である滑川正昭先生が、平成21年3月末で定年退職を迎えました。18年間に亘ってラグビー部にご指導をいただき、その間、全国大会5回出場、県内公式戦111連勝など、数々の記録を残されました。ご退職に当たり、思い出話を含めてご挨拶をいただきましたので、ご紹介いたします。

「日立一高ラグビー部監督時代を振り返って」 第3代監督 滑川 正昭（昭和51年度～平成5年度）

いよいよ38年間の教員生活が終わりました。長いようで短く、今思い出せばあっという間の出来事だったように思われます。良き先輩や後輩・同僚、そして多くの素晴らしい教え子に恵まれ、私ほど幸せな教員生活を送れた人間はいないのではないのでしょうか。

日立一高で18年間勤務し、その間ラグビー部の指導ができたこと、そのことが私の教員としての青春時代になりえたことは、一生の宝です。



県内公式戦111連勝（昭和53年1月の新人戦から昭和60年新人戦決勝まで7年間）、53年・54年・55年・57年・59年の5回全国大会出場（通算5勝5敗）、関東大会に14回出場するなどOBやコーチの協力、部員たちの頑張りにより、これだけの実績を残せたものと思っています。

私のチーム作りの原点は「厳しさ」でした。これだけの厳しい練習に耐えることができれば、これから社会に出て出会う幾多の困難に遭っても耐えられる「強い心」が持てると信じていたからです。とにかく県下一の練習量と質を誇り、日立一高生だからこそ、この猛練習に耐えた。耐えられたのだと思っています。他の学校の監督に日立に勝つためにはこれ以上の練習をしなくては勝てないと言っており

ました。

その年代年代毎に思い出がたくさんあり、今走馬灯のように頭の中を駆け巡っていますが、思い出として2つ述べさせていただきます。

1つは昭和53年に実施した全国の強豪である岩手の黒沢尻工高への遠征です。まだ無名の田舎の進学校でしたが、思い切って相手の監督に電話をして合宿を申し込んだところ、快く受けていただき合宿が組めたことです。スクラムの強いこと強いこと、常に自陣ゴール前はスクラムの山、あぐくは13人スクラムをして、ようやく防ぐなどしながら最終戦で勝つことができ、貴重な経験と自信をつけ、東関東予選で栃木県佐野高校に勝ち初の全国大会に駒を進めたこと。

2つめは平成元年の新人戦準決勝で茗溪学園を破ったこと。この時まで茗溪学園は県内50連勝ぐらいし

ていました。本校の111連勝を止められたのは茗溪学園でした。茗溪学園の連勝を止めたのは私の意地であり部員の意地でもあったのだと思います。その後は群雄割拠の時代に入り未だに連勝記録は破られておりません。

最後に18年間の日立一高ラグビー部監督として、わがままな私にお力添えをいただいた先輩諸兄、そしてよく我慢してついてきてくれた部員に対して感謝申し上げます。

○ポバイクラブについて

日立一高ラグビー部のOBの中には、ラグビー界において大活躍された方、また現在もお活躍されている方が多数おりますが、今回は田沢稔氏（昭和26年度・第4回卒）とポバイ・ラグビーフットボールクラブの創設についてご紹介いたします。

田沢氏は、昭和27年に日立一高を卒業、在学中はラグビー部に在籍し、主将を務めました。卒業後、日本飲薬に入社し、ラグビー部に入部。関東社会人リーグで活躍。当時の日本飲薬は関東で一、二を争うチームであり、全日本の渡部・寺西を配し、田沢氏はCTB・WTBとして活躍しました。

ポバイクラブは昭和43年、田沢氏の発案で県内初のクラブチームを作ることになり、発足しました。当時県北では、磯原高校【創設期のポバイクラブ・おや、あの先輩も】（鈴木正典監督・日立一高第8回卒）、高萩高校（志賀正義監督・同6回卒）、日立商業高（田所仁監督・同4回卒）、日立一高（大和田幡市郎監督・部創設者）など各高校でOBの方々が監督をされていたので各校を回り、OB名簿を入手してメンバーを集めました。

なお、ポバイクラブというチーム名を命名したのは、田沢氏の娘さんです。

昭和49年の茨城国体の社会人チームは、日立製作所を中心に関係チーム編成をしましたが、ポバイクラブからは、次のメンバーが選出され、活躍しました。

○監督：吉田尚一、○コーチ：山形暁志郎、○選手：（主将）尾又篤、橋本和雄、堀田正勝

（OB会会長 吉田 尚一）

※ポバイクラブからのお知らせ

ポバイクラブは、昭和43年に日立一高の先輩方が中心となって結成され、以降40年以上に亘って県内のクラブチームの先頭に立って活躍してきました。

現在は、日立一高以外にも、磯原高校を始めとする県北地区の高校のOB、また、茨城大学ラグビー部のOBなど幅広いメンバーが集まっています。

ポバイクラブでは随時新メンバーを募集しています。一高OBで、またラグビーをやりたい人、知り合いにラグビーをやりたい人がいたら、ホームページから連絡をください。

<http://www.h6.dion.ne.jp/~popeye/index.html>

一緒にラグビーを楽しみましょう！！

ポバイクラブ主将 金澤 勉（平成4年度・第45回卒）



○OB通信

このコーナーは、概ね20～30歳代・40～50歳代・60歳以上の各世代のOBの方々に、お一人ずつ昔の思い出や近況等のご紹介をいただいています。今回は、小峰和之さん、秋山啓市さん、吉野俊郎さんにお話ししました。お忙しい中ありがとうございました。

「私の国際親善」 小峰 和之（昭和38年度・第16回卒）

今から丁度40年前の出来事。オリンピック東京大会を境に日本経済は高成長、好景気の真っ只中・・・私はサラリーマンとして毎日、営業活動に励んでいました。

ある時、同郷の同級生から誘いを受け入会したのが名門クラブ「エリス」でした。（誇り高い日立一高ラグビー部と同時期に創設）このことが鈍りかけていた肉体に火をつけ、ためらうことなくグラウンドに一目散、再びラグビー人生に魅せられて・・・

そこで「創立20周年記念事業」の韓国ラグビー招聘試合に代表選手として韓国遠征メンバーに選抜され、驚きと後悔が交錯。チーム編成は、団長品山（昭和19年東京教育大卒）、・・・故黒田信寛・故田所仁、同先輩ともに東教大OBでエリスの同期草分けで活躍、一高OBも厳しい熱血指導で奮起させられました。・・・監督田頭（昭和28年中央大卒）主将真下（昭和36年東教大卒）ほか、各自ジャージ・チームカラーの違う出身校の面々が23名結集。秩父宮で宿敵エーコン戦を行うなど、遠征に向けて強化練習に努めました。

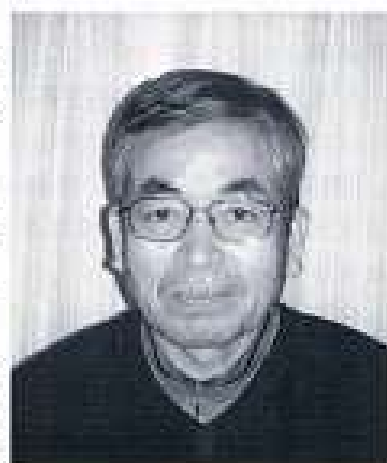
昭和44年9月9日、羽田発大韓航空でソウル市郊外の金浦空港に一行26名が到着する。その夜、盛大なる歓迎パーティに出席。美しい民族衣装を着飾った「キーセン」の踊り、民謡の接待を堪能。緊張もほぐれ、宴は最高潮。

翌休養日を挟んで学生、陸士チームと対戦し、2勝1敗の成果。最終9月15日高麗大戦に出場、雨中戦でS.H.ボールが手につかず、自在にパスが回せず惜敗。敗因に自己反省。

その晩、異国の地で「24歳の誕生日」メンバーがホテルの卓や椅子を並べ替えて宴会場を設定。自慢のノドや踊りでパースデー。夜が更けるのも忘れ、美酒を飲み交わしました。翌日、大陸に別れを告げ、帰路の途へ・・・

この1週間、ラグーマンとして数々の初体験、多くの仲間たちとの親睦交流と国際親善は、青春時代の懐かしい思い出です。

お陰様で間もなく定年。ラグビー同様、喜怒哀楽の人生です。これからも前向きに精進します。今後共々OBの皆様、よろしくお願いします。



「掛け替えのない宝物」 秋山 啓市（昭和49年度・第27回卒）

入学してから数日後の放課後、グラウンドのあの階段でボーッとしていると、3年生らしき方が前に走ってきた。

「君、ラグビーに興味あるのかな？」と優しい声。「いえ僕は別に」すかさず「楕円形のボール触ったこと



ないだろう、少し蹴ってごらん、面白いぞ」そのまま部室へ。

そこには洗いたて？の上下とスパイクがあり、着替えてグラウンドへ。後は自由に15分ぐらい一人で遊ばせてもらい、右や前に転がる楕円ボールの感触と新鮮さに楽しい時間を味わってもらった記憶がある。「もし良かったら入部待ってるからな」ととても紳士的な先輩であった。でも私は小学・中学とブラバンしかやったことがなく、ラグビーなどはとても無理なことであった。

翌日のお昼、教室で弁当を食べていると「おい、1年ボは弁当は部室で食え」昨日の先輩だった。「いえ、僕は入部は・・・」

半強制だった。そこには、ひたすらボールに唾を吐き、ボロきれで拭いている奴がいた。自己紹介をしたら同じクラスではないか。「まだ俺一人だから一緒にやろうぜ」。何故かそのまま居ついてしまった。「ついていなければ、止めればいいや」それから仲間が増え、10数名入った。やはり皆運動部出身で、ランパスも神峰公園頂上ランも、いつもビリだった。夏の合宿で太陽が黄色に見えたことを思い出す。何度も挫折をしながらも、結局3年間続けた。やって良かった。止めないで良かった。そのお陰様で、今でも付き合いをさせて貰っている大事な10名の同期たち。そして沢山の素晴らしい諸先輩方と元気な後輩たち。私にとって掛け替えのない宝物です。

今後、我ラグビー部の行事には、出来るだけ参加したいと思っております。頑張れ！日立一高ラグビー部！！

「楢円球と私」 吉野 俊郎（昭和53年度・第32回卒）

冒頭、日頃の日立一校ラグビー部活動に参加できず大変申し訳なく思っております。

今回、寄稿するにあたり、今までの自分を振り返ってみることにしました。

日立一高入学と共にラグビー部に入部しました。きっかけとなったのは受験勉強の合間にTVで見た早明戦が印象に残ったことと中学時代の野球部の先輩が数多くラグビー部に在籍していたからでした。初めて楢円球を手にし、自由にグラウンドを走り回った楽しさは、いまだに昨日のこのように鮮明に記憶されています。

当時、清川先生、吉田氏、斉藤氏、尾又氏、武藤氏を始めとする先輩方から熱心に指導を受け、私の中でのラグビーの楽しさは膨らんでいきました。その結果、全国大会初出場、高校日本代表英国遠征参加という経験もさせてもらいました。1823年、英国のRugby高校でウィリアム・ウェップ・エリス少年がサッカーの試合中にボールを持って走ったのがRugbyの発祥とされています。遠征時、その記念碑を間近で見た感動がいまだに私がRugbyを続けている情熱の礎であると思います。

その後、早稲田大学に入学、憧れのラグビー部に照沼氏、益子氏とともに入部。

そこで出会ったRugbyは高校時代に経験した楽しいRugbyとはやや違った勝つためのRugbyでした。全ては勝つためにというRugbyが、最初は戸惑いから馴染めませんでしたが、自分のプレイを見て感動を覚えてくれる人（他の部員、OB、観客etc.）がいることを知り、徐々に勝つためのRugbyも好きになっていきました。幸運にも1年生から試合に出場し、日本代表にも選ばれ、充実した大学時代を過ごしました。ただ、学生時代に日本一になれなかったこともありサントリー一勝に入社し、社会人でRugbyを続ける道を選択。

サントリーでの一番の思い出は35歳のときにチームが初めて日本一になったことです。当時はみな30歳前後で引退するような時代でしたから、私が長く現役でプレイをしていることは稀でした。社会人大会の決勝戦は、27対27の同点でトライの数でサントリーが日本選手権に出場するという劇的な試合でした。しかも最後のロスタイムで同点になるという奇跡的なエンディング付きです。このときに私はRugbyから3つのことを学びました。35歳でも毎日トレーニングさえしていれば試合にでることができる。このことから「継続は力なり」。最後のロスタイムでも勝つことを信じていけば奇跡的なことは起こる。このことから「夢はいつか必ず叶う」。この体験を機に私のRugbyへの思いは更にふくらみ、いまだ現役でワセダクラブというチームでプレイを続けています。

日立一高、早稲田大学、サントリー、六甲クラブ、ワセダクラブと数多くのチームでプレイしたこともあり、現在仕事をするうえでもこの時の仲間（先輩、同期、後輩）のお陰で人の輪が大きく広がっております。色々と振り返ってきましたが、今の私の原点は日立一高で始めて出会ったRugbyに大きく影響されています。私も今の現役の高校生も同じ日立一高生。楽しむこと＝興味をもつこと。が全ての原点であることを後輩に伝えて行きたいと思っています。



○ 卒業生の送別会が開催されました

3月22日(日) 卒業生を招いて、現役部員と顧問の先生方が送別会を開催しました。OB会からは吉田会長、尾又副会長、近藤幹事長、木下事務局長が、父母会からは長谷川前会長夫妻が参加しました。

午前中は1・2年生とグラウンドで練習し、12時30分から場所を地学室に移して会食。OB会からはOBの仲間入りを記念してネクタイが、現役からは寄せ書きの色紙が、卒業生に贈呈されました。



【吉田会長からはネクタイが】



【新主将・副将からは寄せ書きの色紙が】

○ 「誌上広告」について

OB会の財政安定化をはかるため、前号からOB会員等が経営する会社等の広告を掲載しています。(次頁参照)

広告代は年2回発行で1口1万円以上ということで、35人のOB会員にお願いしたところ、11人の応募がありました。(山形暁志郎氏(昭和33年度卒)・金成和彦氏(昭和49年度卒)からは、広告掲載無用ということで、ご寄付をいただいています。)

ご協力をいただいた皆様には、厚くお礼申し上げます。なお、ご本人が議員の方については、寄付行為が禁止されていますので、OB会員ではなく会社等の代表者氏名になっていることを申し添えます。

○ 編集後記

「サクラサク」懐かしい響きのすることばです。今を去ること十十年前、「サクラサク」の電報が届くのを玄関の前で首を長くして待っていた方も多いことと思います。

平成20年度は、部員10人+マネージャー1人=計11人が、母校を巣立っていきました。全国各地に散っていった彼等には、正月の蹴初めや夏合宿、そして行事がなくても帰省の折には学校に顔を出し、後輩たちとの絆を深めて欲しいと思います。

後輩たちは先輩の背中を見て育ちます。一人でも多くの卒業生が、大学や社会に出てラグビーと関わり、活躍することで、現役部員の憧れや目標となってくれることを心から願っています。

(編集担当幹事：松永 啓)



【父母の会から、今年卒業する部員に送られた記念品は、思い出のいっぱい詰まった仲間たちとの写真でした。】

日立一高ラグビー部OB会報 第11号

発行責任者：幹事長 近藤 雅年(昭和32年度 第10回卒)

編集者：幹事 松永 啓(昭和40年度 第18回卒)

笠井 知洋(昭和59年度 第37回卒)

本田 浩一(平成2年度 第43回卒)

事務局：〒317-0065 日立市助川町3-7-4 木下俊雄

柴田 和則(昭和57年度 第35回卒)

菊池 敬(昭和61年度 第39回卒)

金澤 勉(平成4年度 第45回卒)

【電話】0294-21-4890(FAX同じ)

茨城クリーン有限会社

代表取締役 夏井 一郎

(昭和37年度 第15回卒)

〒310-0804 水戸市白梅3丁目10番5号

電話：029-231-7741

尾又運送株式会社

代表取締役 尾又 篤 (昭和36年度卒)

取締役 尾又 彰彦 (平成2年度卒)

〒316-0035 日立市国分町3丁目11番7号

電話：0294-36-2856

有限会社 ゴー企画

取締役 櫻村 じゅん子

(昭和46年度 第24回卒)

〒319-1304 日立市十王町友部2166番地3

電話：0294-39-6709

鈴菊商店

代表 鈴木 真治

(平成2年度 第43回卒)

〒319-1701 北茨城市平潟町293番地

電話：0293-46-5110

日栄産業有限会社

代表取締役 斉藤 廣

(昭和31年度 第9回卒)

〒317-0076 日立市会瀬町3丁目2番14号

電話：0294-37-3731

村山商店

代表 村山 功

(昭和42年度 第20回卒)

〒319-1702 北茨城市大津町2731番地1

電話：0293-46-0172

日立一高ラグビー部OB会 役員会

会長 吉田 尚一

(昭和31年度 第9回卒)

株式会社 岡部工務店

代表取締役会長 岡部 英男

(茨城県ラグビーフットボール協会会長)

〒316-0003 日立市多賀町2丁目10番7号

電話：0294-36-1681

株式会社 カントウスプレー

専務取締役 本田 浩一

(平成2年度 第43回卒)

〒317-0054 日立市本宮町3丁目32番12号

電話：0294-22-0807

秋光電気工事株式会社

代表取締役 秋山 啓市

(昭和49年度 第27回卒)

〒316-0003 日立市多賀町1丁目20番22号

電話：0294-36-1987

肉の登利製 日立店

店主 古口 利博

(昭和39年度 第17回卒)

〒317-0073 日立市幸町2丁目8番14号

電話：0294-21-0971

ブリヂストンタイヤセンター茨城北株式会社

代表取締役 松永 啓

(昭和40年度 第16回卒)

〒316-0015 日立市金沢町1丁目7番12号

電話：0294-36-3067



日立一高ラグビー部 父母の会

会長 深谷 美津江

(ほか 保護者一同)

私たちは、日立一高ラグビー部を応援しています！